

一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ

おおくほいせき
大久保遺跡

2001

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ

おおくぼいせき
大久保遺跡

2001

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

浦佐バイパスは、国道17号線が通過する大和町・小出町の交通混雑と降雷時の交通障害・除雪障害などの問題を解決するために計画された大和町市野江と小出町虫野を結ぶ全長6.6kmのバイパスです。

本書は、この道路建設に先立ち発掘調査を実施した「大久保遺跡」の発掘調査報告書です。調査の結果、古墳時代後期の円墳が5基見つかりました。これまでのところ、魚野川右岸地域において古墳時代遺跡の発掘調査例は少なく、その意味で、貴重な調査であるといえます。

今回の調査結果が、本県における古墳時代を解明する研究資料として活用され、多少なりとも寄与するところがあれば幸いです。

最後に、この調査に対して多大なご協力とご援助を賜った大和町教育委員会ならびに地元住民の方々をはじめ、建設省北陸地方建設局・長岡国道工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

新潟県教育委員会

教育長 野本憲雄

例 言

- 1 本報告書は新潟県南魚沼郡大和町大字浦佐字大久保3580番地ほかに所在する大久保遺跡の発掘調査記録である。
- 2 発掘調査は一般国道17号浦佐バイパスの建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が建設省から受託して実施したものである。平成13年1月、省庁再編による省名変更が行なわれたが本文中では旧著名を使用した。名称の新旧は以下のとおり。

旧：建設省北陸地方建設局長岡国道工事事務所→新：国土交通省北陸地方整備局長岡国道工事事務所

- 3 発掘調査は新潟県教育委員会が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に調査を依頼し、平成11年度に実施した。
- 4 整理及び報告書作成にかかる作業は平成11年度に実施し、埋文事業団職員がこれにあたった。
- 5 出土遺物と調査にかかる資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記記号は「大クボ」とし、出土地点・層位等を併記した。
- 6 作成した図版のうち、既成の地図を使用した場合はそれぞれにその出典を記した。
- 7 本書に掲載した遺物番号はすべて通し番号とし、本文、遺物観察表、図版、写真図版の番号は一致している。
- 8 引用文献は著者および発行年を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 9 本書の記述は尾崎高宏（埋文事業団文化財調査員）、坂上法子（同文化財調査員）が分担執筆したもので、分担は以下のとおりである。また、遺物観察表は片岡千恵（埋文事業団嘱託員）が作成した。本書の編集は尾崎・坂上が行った。

第Ⅰ章 序説（坂上）

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

1 地理的環境（坂上）

2 周辺の遺跡（尾崎）

第Ⅲ章 遺跡の調査（尾崎）

- 10 大久保遺跡の遺構・遺物の概要については『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成11年度』『埋文にいがた』に記載があるが、本報告書との間に齟齬がある場合は本報告書の記載をもって正とする。
- 11 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示・助言を得た。厚く御礼申し上げる。

（敬称略、五十音順）

石川 日出志、橋本 博文、大和町教育委員会、山本 肇、森山 元

目 次

第I章 序 説

1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法と経過	
A 1次調査	1
B 2次調査	2
3 調査体制	2
4 整理・報告の体制	3

第II章 遺跡をとりまく環境

1 地理的環境	4
2 周辺の遺跡	6

第III章 遺跡の調査

1 グリッドの設定	8
2 層 序	8
3 遺 構	
A 概 要	10
B 古 墳	10
(1)1号墳 (2)2号墳 (3)3号墳 (4)4号墳 (5)5号墳	
4 遺 物	
A 概 要	11
B 古墳時代の遺物	11
土師器 甕 杯	
須恵器 甕	
管 玉	
C 縄文時代の遺物	12
土 器	
石 器	
5 まとめ	13
引用・参考文献	13
要 約	14
観察表	15

挿図目次

第1図	大久保遺跡1次調査トレンチ配置図	1
第2図	大久保遺跡位置図	5
第3図	周辺の古墳時代遺跡	7
第4図	グリッド配置図	8
第5図	基本層序	9

図版目次

図面図版

図版1	遺構配置図
図版2	1号墳平面図・セクション図 2号墳平面図・セクション図 2号墳遺物出土状況
図版3	3号墳平面図・セクション図
図版4	4号墳平面図・セクション図 5号墳平面図・セクション図
図版5	出土遺物実測図1 土師器・須恵器
図版6	出土遺物実測図2 縄文土器・石器

写真図版

図版7	遺跡遠景・調査区全景
図版8	基本層序、基本層序、1号墳検出、1号墳出土土器、1号墳周溝セクション（東セクション）、 1号墳完掘状況
図版9	2号墳近景、2号墳西側周溝土器、2号墳西側周溝土器、3号墳完掘、3号墳周溝東側セクション、 3号墳南東側周溝土器、5号墳完掘、調査区完掘状況
図版10	出土遺物（1）
図版11	出土遺物（2）

第I章 序説

1. 調査に至る経緯

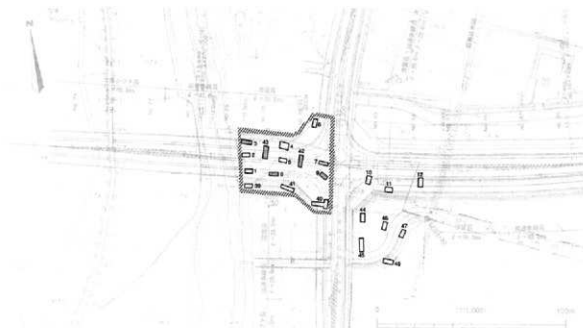
一般国道17号は、東京都中央区と新潟県新潟市とを結ぶ本州を横断する総延長431kmの主要幹線道路である。現在の大和町・小出町周辺の国道17号の状況は上越新幹線・関越自動車道などの整備に伴い、交通量が増大している。これにより交通混雑や降雷時の交通障害・除雪障害などが深刻な問題となってきた。

これらの諸問題を解決するため建設省は、大和町市野江を基点とし、小出町虫野に至る全長6.6kmのバイパス「浦佐バイパス」の建設を計画した。浦佐バイパスの建設に先立ち、建設省北陸地方建設局長岡工事事務所（以下、「民間工事事務所」とする）は、新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）に浦佐バイパス予定法線に関する埋蔵文化財の分布状況について照会した。これに対して県教委は平成6年11月に踏査を行った。その結果、遺跡の存在する可能性が指摘された。

2. 調査の方法と経過

A. 1次調査

県教委から依頼された財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団は、平成10年8月29日から9月10日までに



2. 調査の方法と経過

25,000m²について一次調査を行った。調査は対象範囲内に合計48ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機を使用して表土から地山まで徐々に掘り下げ、人力で精査を行いながら遺構・遺物の有無、土層の堆積状況を確認した。その結果、遺構は検出されなかったが、3・8・9・42・43トレンチで縄文晩期の土器が約50点出土した。調査の結果を受けて県教委は、これらのトレンチの位置する魚野川右岸の標高130mの河岸段丘の縁辺部1,850m²について二次調査が必要であると長岡工事事務所に通知した。発見遺跡は「大久保遺跡」として登録された。(平成10年10月14日付け「教文第666号」)

B. 二次調査

二次調査は、平成11年9月1日から11月30日までの期間で実施した。調査は基本的に調査員4名、作業員25名(11月8日より5名増員し30名)の体制で行った。プレハブ予定地の整地やプレハブの設置、機材の搬入・整備は9月1日から9月4日までに行った。

調査範囲は水無川によって形成された扇状地の先端部にあたる。遺跡の調査前の現況は山林および荒蕪地であった。雑木や下草が生い茂っていたため、9月1日から伐採や草刈りなどの作業を先行して行った。

実質的な調査は9月6日から開始した。表土除去は重機を用い、調査区西側の河岸段丘縁部から、土層観察用のセクションベルトを設定しながら9月17日まで作業を行った。

表土除去の結果、遺物の出土は見られなかった。調査区北東側付近では礫が集中して見られ、包含層や遺構も確認できなかったため、氾濫した河川の跡と判断してこの部分の調査を終了した。9月20日から作業員を投入し、調査員の指示のもと包含層掘削を開始した。セクションベルト脇・調査区端に数箇所のサブトレンチを開け、層序を確認しながら掘り下げた。調査区北側は黒褐色土(Ⅲ層)の上層に水田の床土が厚く堆積していた。水田耕作により黒褐色土(Ⅲ層)が一部削平されていることが判明した。黒褐色土(Ⅲ層)からは縄文土器・土師器片が出土しているが、出土地は数箇所集中していた。また黒褐色土(Ⅲ層)以下の層からは調査区全体に礫が多く見られた。水無川の氾濫により礫が堆積したものと考えられ、特に調査区中央部・東部で礫がより密集していることが確認された。10月28日・11月4日・11月10日には、遺構確認面から円墳(1～5号墳)の周溝と思われるブランが確認された。順次検出写真の撮影・遺構発掘・遺物図面の作成作業を行った。11月20日には現地説明会を実施し、多くの参加者を得た。11月25日には遺構発掘を終え、航空写真の撮影を実施した。11月26日からは平面図・断面図作成を中心に作業を行った。すべての作業は11月30日をもって終了した。

3. 調査体制

【一次調査】

調査期間	平成10年8月29日～9月10日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 野本憲雄)
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団(事務局長 須田益輝)
管理	須田 益輝(専務理事・事務局長) 若槻 勝則(総務課長) 本間 信昭(調査課長)

庶務	椎谷 久雄 (総務課主任)
調査指導	高橋 保 (調査課第二係長)
調査担当	小田由美子 (調査課第二係主任調査員)
調査職員	松高 悦子 (同 嘱託員)

【二次調査】

調査期間	平成11年9月1日～11月30日
調査主体	新潟県教育委員会 (教育長 野本憲雄)
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 (事務局長 須田益輝)
管理	須田 益輝 (専務理事・事務局長) 若槻 勝則 (総務課長) 本間 信昭 (調査課長)
庶務	椎谷 久雄 (総務課主任)
調査指導	高橋 保 (調査課第二係長)
調査担当	尾崎 高宏 (調査課第二係文化財調査員)
調査職員	坂上 法子 (同 文化財調査員) 白井 利夫 (同 嘱託員) 片岡 千恵 (同 嘱託員)

4. 整理・報告の体制

出土遺物の水洗作業は調査現場で発掘調査を並行して行い、註記・接合・復元・原稿作成は平成11年12月から平成12年3月にかけて新潟県埋蔵文化財センターにて実施した。整理体制は以下に示す通りである。

整理期間	平成11年12月1日～平成12年3月31日
主体	新潟県教育委員会 (教育長 野本憲雄)
整理	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 (事務局長 須田益輝)
管理	須田 益輝 (専務理事・事務局長) 若槻 勝則 (総務課長) 本間 信昭 (調査課長)
庶務	椎谷 久雄 (総務課主任)
整理指導	高橋 保 (調査課第二係長)
担当	尾崎 高宏 (調査課第二係文化財調査員)
職員	坂上 法子 (同 文化財調査員) 片岡 千恵 (同 嘱託員)

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

1. 地理的環境

大久保遺跡は新潟県南魚沼郡大和町大字浦佐字大久保3580番地ほかに所在する。大和町は新潟県中越地方の南東部に位置し、南魚沼郡内では郡の北端にあたる。大和町の南東部には標高2,000m級の山々が連なる越後三山、西部には平均標高700mの魚沼丘陵の山々が広がっている。

南魚沼郡を北流する魚野川は、群馬県境の谷川岳を源とし、北魚沼郡川口町で信濃川と合流する全長70kmの信濃川支流の中でも最長の川である。集水量が多く、上流では山麓から流下するためV字谷が多く発達し、谷川連峰から西流する登川・三國川・水無川などの比較的大きな支流と、魚沼丘陵から東流する鎌倉沢川・庄之又川などのいずれも延長約4kmの小沢が合流する。これらの支流の河口には大・小規模の扇状地が発達している。江戸時代には六日町・長岡・新潟を結ぶ定期船も運行され、人の往来や物資の運搬が頻繁に行われた。

魚野川支流の水無川は越後三山の中ノ岳(2,085m)・駒ヶ岳(2,003m)・八海山(1,775m)から流れ出る水を集め、谷を刻みながら西流し、魚野川に合流する。全長8.3kmと比較的短いが、高度差が大きく、峻険な浸食地形を形成している。上流では水量が豊富であるにもかかわらず、下流の八色原の砂礫地帯に入るとその量は漸減し、伏流水となるため平時の水量は少ない。魚野川合流点付近で湧水帯を作っている。上・中流域には礫片岩・千枚岩などからなる水無川変成岩が広く露出している。

魚野川支流の扇状地はその形成によって新旧2種に区別される。旧期のものは魚野川に接する前縁に比高1～3mの浸食崖を持つ。扇頂部の標高は200～260m、扇端部の標高は140～160m、比高40～120mと傾斜が大きい。新期のものは下流部に発達し、扇頂部が低位置にあり、勾配が小さい。魚野川左岸には新旧両種のものが発達し、複合扇状地を作り出している。右岸には新期の大規模な扇状地が形成されている。遺跡の立地する八色原扇状地は後者の部類に含まれる。

水無川によって形成される八色原扇状地は東西約4km、南北約6km、面積1,170haの広大な扇形を呈する扇状地で、扇頂部の標高は203m、扇端部の標高は120m、その比高は83m、平均勾配2%である。山麓部より形成されていく扇状地は、八海山から南に延びる坊谷山によって南への成長が阻害され、進路を北北西にとる。扇頂部の大倉・荒金・黒土・黒土新田・船ヶ沢新田などの集落では段丘化している。現在でも集中豪雨・融雪水によって砂礫の堆積が進んでいる。近世以来、耕地拡張や新村形成・食料増産などのために八色原開発は着手されてきたが、この黒ボク土は強酸性の土壌のため耕作には適さず、桑畑や畑がわずかに開かれたにすぎない。昭和20年以降、山林・荒蕪地の開拓が計画され、昭和41年からは総合農地開発が開始されて開田・開畑に成功し、米・スイカ・大崎菜の産地として知られるようになった。

現在、魚野川左岸には国道17号・JR上越線・上越新幹線が、右岸には関越自動車道・国道291号・主要地方道塩沢大和線が魚野川の流れに平行して縦断している。

遺跡は八色原扇状地の扇端部、魚野川右岸の段丘崖直上にあリ、東側で主要地方道塩沢大和線と接している。



第2図 大久保遺跡位置図

(国土庁発行地形図「小田」(重訂版))

2. 周辺の遺跡

南魚沼地方（大和町・六日町・堀沢町・湯沢町）の魚野川流域（南魚沼地域）には、支流である登川・庄之又川・三國川・水無川などによって形成された大小の扇状地が発達しており、これらの扇状地と後背の丘陵・山地には、縄文時代・古墳時代を中心にして数多くの遺跡が存在する。

中でも、古墳時代の遺跡（古墳）については、六日町飯綱山古墳群65基、堀之内町古林古墳群6基、大和町下山古墳群6基、同町名木沢古墳群1基、六日町蟻子山古墳群91基、堀沢町吉里古墳群には塚塚古墳4基・万貝古墳1基の計5基、同町南山古墳群6基など消滅したものを含め、合計約180基見つかっており、県内では高田平野とならび古墳の集中地域として知られている。〔金子ほか1977〕

これらの古墳は、飯綱山10号墳・27号墳の直径40mを筆頭に20m前後、10m前後と、規模により3つのグループに分けることができる。古墳の大部分を占めるのは、直径10m前後もしくはそれ以下、墳丘の高さが1～3mの小規模な円墳である。階層が下がるほど古墳の数が多くなる「ピラミッド状」の秩序編成で古墳築造が行われていたことがわかる。

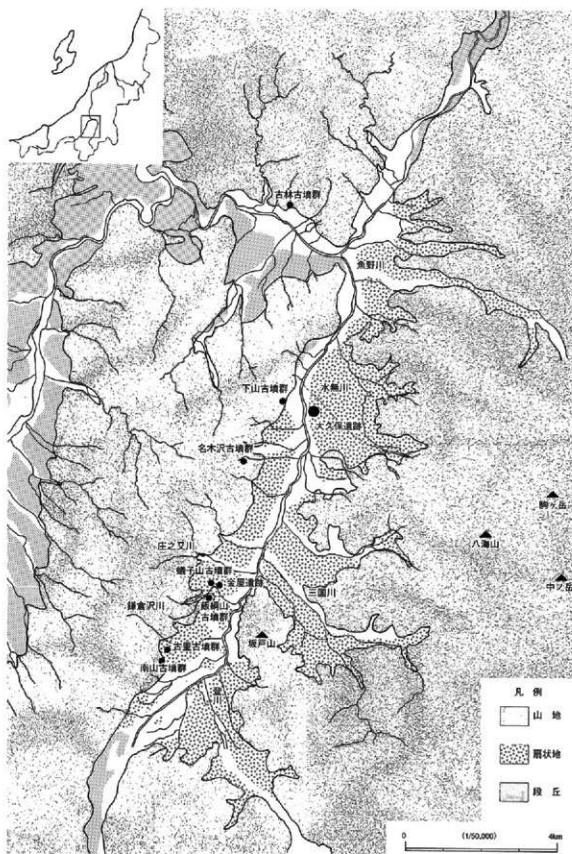
古墳群の立地は、魚野川右岸の河岸段丘上に立地する古林古墳群を除いて、いずれも左岸の丘陵（魚沼丘陵）上および丘陵縁辺の扇状地に立地しており、現在までのところ、分布に偏りが見られる。

各古墳群の時期については、大きく2時期に分けることができる。古墳時代中期末から後期前半（5世紀後半から6世紀前半）に造営されたものとして、飯綱山古墳群、下山古墳群、蟻子山古墳群、名木沢古墳群がある。古墳時代後期後半（6世紀から7世紀）の横穴式石室を持つ群集墳としては、吉里古墳群・南山古墳がある。古林古墳群については、中期末から後期前半の木箱直葬の古墳とともに、後期後半の横穴式石室を持つ古墳があり、2時期にわたり存続している。〔堀之内町1997〕

出土遺物は、一例を挙げると、飯綱山10号墳で短甲・小型仿製鏡4面・鉄製鏃・鉄製馬具・環鈴・馬鐙・須恵器の風など畿内政権とのつながりを示すような遺物が見られる。その他の古墳においても直刀・鉄鏃等の武器類、勾玉・管玉などの玉類、須恵器、土師器など比較的豊富な副葬品を伴う古墳が多い。

一方、古墳時代の集落遺跡の調査例は少なく、六日町金屋遺跡のみである。金屋遺跡の後背の丘陵上には蟻子山古墳群が所在する。古墳時代前期末（4世紀末）と中期末（5世紀末）の堅穴住居跡が検出されている。

大久保遺跡で確認された古墳については、1977年刊行の『大和町史』の中で「大久保古墳群」として紹介されている。記述によると、19基の古墳が存在しており、土師器・須恵器が採集されている。昭和20年代に始まった、八色原開拓の際に見発されたが、耕作によって削平されてしまったこともあり、その所在や内容については不詳となっていた。



第3図 周辺の古墳時代遺跡

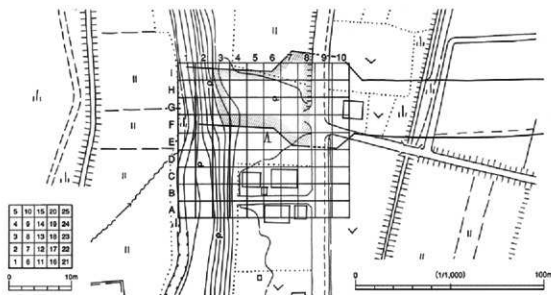
第Ⅲ章 遺跡の調査

1. グリッドの設定

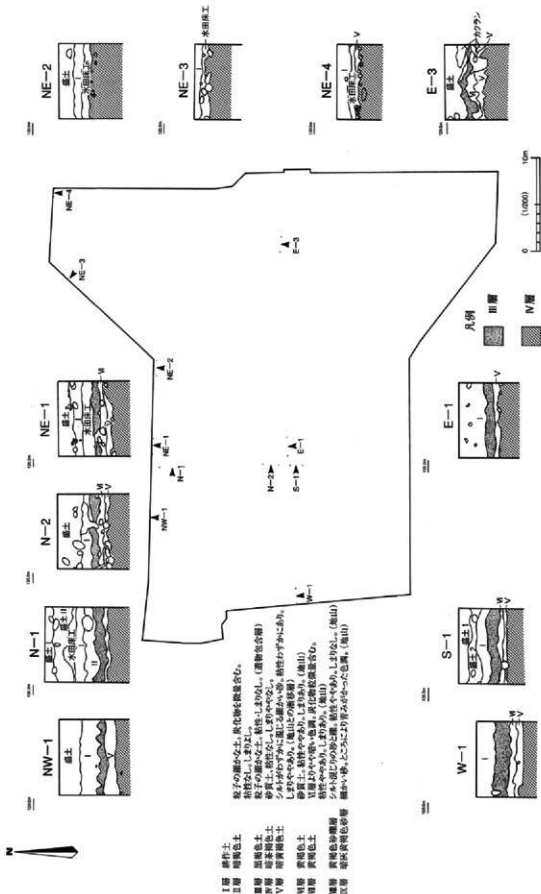
国家座標の軸に従いグリッドを設定した。グリッドは大・小の2種があり、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドは大グリッドを2m四方に25等分したものである。大グリッドの名称は南西隅の杭を基点として、東西方向では西から算用数字を付し、南北方向では南からアルファベットを付して「5F」のように組み合わせて表示した。小グリッドは南西隅の杭を基点に1～25の算用数字を用い、「5F-23」のように大グリッド表示のあとにつけて呼称した。

2. 層序

調査区は扇端部に位置しており、東側から北西方向に緩やかに傾斜している。礫混じりの水無川の扇状地堆積物を基盤層として、その上層に遺物を含む黒土が堆積している。土層の堆積も東側では基盤層から0.2mと薄く、北西で最も厚く堆積している。現況は北西部分が水田で、それ以外は山林であった。層序はⅠ～Ⅵ層に識別できる。後世の耕作や攪乱等により、土の移動が著しく包含層が良好に遺存していない場所も認められた。特に水田部分では耕作による攪乱が基盤層まで及んでおり、6・7Hでは水田の床土が盛られていた。以下、遺構の説明等で示すアラビア数字Ⅰ～Ⅵは基本層序を表す。



第4図 グリッド配置図



第5図 基本図序

3 遺構

A. 概要

円墳5基(1~5号墳)を検出した。近年の耕作等により、削平が著しく、墳丘盛土及び埋葬主体部は完全に失われており、周溝の底部のみを検出した。いずれの古墳周溝においても、基本層序Ⅲ層と同一の黒色土を覆土としていた。古墳の造営は、基本層序Ⅲ層(縄文時代の包含層)上面を旧表土面とし、周溝および墳丘盛土はこの面から構築されていたと考えられるが、Ⅲ層段階では、周溝プランを検出することができなかった。

本遺跡では縄文時代の遺物も出土しているが、当該期の遺構は確認されなかった。

B. 古墳(図版2 写真図版8)

1号墳

1号墳は、調査区の北西側、段丘の端部に位置し、直径5.2m、周溝幅0.3~0.5m・深さ0.1mを測る。V層上面で検出した。古墳の中心部付近のⅢ層上面から土師器甕1点が出土した。墳丘盛土への混入もしくは、古墳築造前の地鎮などの祭祀に伴うものと推測される。

2号墳

2号墳は、調査区の東端に位置する。確認面はV層上面である。東側が調査区外であるため全容は不明であるが、推定で直径約6mのプランを持つと考えられる。周溝は幅約0.5m・深さ約0.1mを測る。西及び南西側の周溝底部から土師器甕2点・内面黒色処理の杯が4点出土した。

3号墳

3号墳は、調査区のはほぼ中央部に位置する。確認面はV層上面である。北側が近年の耕作により、完全に削平されていた。直径は9.2m、周溝は幅約0.8m・深さ0.1~0.2mを測る。今回確認された古墳の中では最大の規模を持つ。古墳内の包含層および確認面では円礫が集中して見られた。段丘礫が部分的に集石したものであると考えられるが、墳丘構築時、周溝から攪混じりの土を盛り上げたため、より密集したと推測される。6G-13から管玉が1点、南西側の周溝底部で土師器甕1点が出土した。

4号墳

4号墳は、調査区の東端にあり、2号墳の南側に位置する。確認面はV層上面である。2号墳と同様に東側が調査区外であるため、全容は不明である。推定で直径約9~10m、周溝は幅約1.5m・深さ0.1mを測る。周溝が直線的に延び、隅丸の正方形に近い形を呈する。周溝の西側から古墳の中央部分にかけて、後世に攪乱を受けており、周溝が寸断している。南西側の周溝底部から土師器甕の破片が出土した。

5号墳

5号墳は、調査区北西にあり、2号墳の北側に位置する。確認面はV層上面である。幅0.5m、深さ0.1mの東西に延びる溝状の遺構として検出した。東・西端が後世の攪乱を受けており、全容は不明であるが、覆土の状況や立地などから見て、古墳周溝の可能性が高いため、5号墳として報告する。

4. 遺物

A. 概要

大久保遺跡の遺物は、古墳時代後期の土師器・須恵器のほか、縄文時代の土器・石器など、大きく分けて2時期の遺物が平箱で約5箱出土した。以下、時期ごとにその詳細を記す。

B. 古墳時代後期の遺物 (図版5・6 写真図版10・11)

古墳時代後期の遺物は、土師器では甕5個体・杯9個体、須恵器では甕1個体を確認した。ここでは、器形の把握できるもの18点を図化した。

土師器

甕 (1~6)

1は、1号墳の墳丘内(旧表土面)から出土した。破片数が少なくうまく接合することができなかったため、図上で復原した。球胴状を呈する。2は、2号墳の南西側周溝から検出された大型の甕である。体部下半に最大径を持つタイプであると思われる。3は、2号墳の南側周溝から出土したもので、底部径は3cmと小さく、器高とのバランスが不安定で自立しない。成形の際、底部と体部の接合部に、粘土帯を張り付けて補強している。4は、3号墳の周溝から検出された小型甕で、非常に軟質である。表面の風化が著しく、調整等は不明である。5は、4号墳の周溝から出土したもので、甕の胴部である。6は、7F-14から出土した甕の底部である。調整は、目の粗いハケ原体による。

杯 (9~16)

9~16は、いずれも体部から口縁部が外反する形態をもつ、内面黒色処理の杯である。器壁の厚さや、黒色処理の範囲により、大きく3つに分けることができる。

1. 器壁が厚手で、黒色処理が内外面に及ぶもの (9, 10, 12, 13)
2. 器壁が薄手で、黒色処理は内面のみのもの (15)
3. 器壁が厚手で、黒色処理が内面のみに見られるものがあげられる。(11, 14)

9~12は2号墳周溝出土のもので、黒化の範囲が内外面に及んでいる。内外面をヘラミガキで仕上げている。底部は平坦面をもつ。13は底部に焼成前につけられた記号状のヘラ書きが見られる。

13は6F-18出土した。調整は器面の風化により、ヘラケズリの痕跡を認めるのみである。明瞭ではないが、底部外面には木葉痕が見られる。内面下半では放射状、上半では横位のヘラミガキを施し、黒化の範囲は内面のみである。口縁部を内面方向から人為的に打ち欠いた痕跡が見られる。14は、厚手で、深身の形状を呈する。内面の屈曲部に稜をもつ。15は5H-7のⅢ層中から出土したもので、器壁が他に比べ薄く、深身である。外面は横方向のヘラミガキ、底部外面はやや平坦で、ヘラ記号をもつ。16は、4G-20のⅢ層から出土した。口縁が大きく外反し、浅身の形状を呈する。

須恵器

鏝 (7, 8)

破片数が少なく復原できなかった。1個体分の破片が確認された。7は肩部で、外面に横方向のカキ目を施し、内面には同心円文の当て具痕が見られる。8は体部で、外面はタタキ目、内面はスリケシされた同心円の当て具痕が見られる。

管玉 (17)

極めて軟質な緑色凝灰岩製で、長さ1.8cm、直径1.0cm、孔径0.5cmをはかる。一端が丸くすはまる形状で、片側一方からから穿孔されている。表面の風化が著しいため、研磨の痕跡は確認できなかった。一部が欠損している。

C. 縄文時代の遺物 (図版6 写真図版8)

縄文時代の遺物は、前期末・晩期中葉の土器、石器がある。ここでは図化できる11点を掲載した。

土器 (18~23)

18, 19は、諸磯b式土器である。18は、口縁部に平行して横位の爪形刺突列を施す。縦位の沈線文上には刻み目があり、区画内には斜位の平行沈線が見られる。19は、沈線による入組木葉文が見られ、磨消しを伴っている。20は、輪積痕が残る無文の土器である。外面に炭化物が付着している。21, 22は、同一個体と思われる。21は口縁部で、1条の縦格文を施している。網目状燃糸文の形状が変形でなく、正方形に近い形を呈している。24は、口縁部に4条の縦格文をもつ。

石器 (24~28)

大久保遺跡から出土した石器・剥片類はわずかに7点にすぎない。本書には石器・剥片のうち5点について報告する。出土状況は散発的であり集中分布は見られなかった。石器の分類および計測部位については清水上Ⅱ遺跡の分類 [鈴木ほか1996] に準拠した。

24は安山岩を素材とする楕形の打製石斧で、片面に自然面を残す。両側縁に摩耗痕が見られる。25は粘板岩を素材とする不定形石器である。左側面、上側面は節理面である。26は表裏が節理面である。打製石斧の欠損品で使用時に剝離したものと考えられる。27は、凝灰岩を素材とする片刃の打製石斧である。右側縁が折れ、左側縁が直線状に二次加工されている。28は、粘板岩を素材とする不定形石器で上側面は節理面、表面には自然面を残す。

5. まとめ

大久保遺跡では、第2次世界大戦後の開拓・耕作による攪乱および洪水等の影響により、墳丘が完全に削平された古墳（円墳副溝）5基のほか、遺構は検出されなかった。古墳の埋葬主体部の構造については不明であるが、調査時に石室石材およびその痕跡が認められなかったことから、木棺直葬墳であった可能性が高いと考えられる。

遺物も整理箱にして約4箱とわずかであった。古墳群に並行する時期のものとしては土師器・須恵器・管玉がある。その他に縄文時代前期末および晩期の土器・石器があるが、ごく少量、散発的に認められたに過ぎず、遺構に共伴するものとして、1号墳では墳丘盛土内（旧表土面）から土師器壺、2・3号墳では周溝内から土師器甕、内面黒色処理の杯が出土している。古墳築造および葬送に伴う土器祭祀が行われていたと考えられる。とりわけ2号墳出土（12）の杯で、底部に記号状のヘラ書きが認められることは、土器祭祀との関連で注目される。壺（1）は金屋遺跡出土土器〔山本1985〕、杯類は飯綱山古墳群出土土器〔金子ほか1977〕、保内三王山5号墳出土土器に類似した形態が見られる〔甘粕1989〕。また須恵器外面のタタキ目および内面の当て具痕のスリケシが見られることなどから陶器編年のTK23～47期にあたるものと推測される。土器群の年代は、上越市一之口遺跡東地区編年のI期に先行する時期で、5世紀後半から6世紀初頭に比定される。古墳群も土器年代におおむね並行する時期に連続して築造されたと考えられる。

魚野川流域の古墳群の分布は第Ⅱ章の2で述べたように、そのほとんどが左岸で確認されている。魚野川右岸における古墳の調査は堀之内町古林古墳群に続いて今回が2例目となる。大久保遺跡の成果は右岸の段丘上（扇状地端）においても、小規模古墳群および古墳造営集団（集落）が存在する可能性をより明確に示唆するものと言える。

《引用・参考文献》

- 『角川日本地名大辞典』編纂委員会 1989『新潟県地名大辞典』角川書店
- 甘粕 健ほか 1989『保内三王山古墳群 測量・発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 池田 亨 1987『柳古新田下原A遺跡』大和町文化財発掘調査報告 第2号 大和町教育委員会
- 池田 亨 1988『水上遺跡』大和町教育委員会
- 江口 友子ほか 1999『金家遺跡・三仏生遺跡・割目A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第92集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子 拓男ほか 1977『伊予乃郡の古墳』『南魚沼』新潟県文化財調査年報 第15 新潟県教育委員会
- 鈴木 俊成ほか 1994『一之口遺跡 東地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 新潟県教育委員会 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木 俊成ほか 1996『清水上遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第72集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 茅原 一也ほか 1977『新潟県南魚沼地域の地形および地質』『南魚沼』新潟県文化財調査年報 第15 新潟県教育委員会
- 橋本 博文ほか 1997『飯綱山古墳群（10・27号墳）測量調査報告』新潟大学考古学研究室
- 堀久 菊治 1994『南魚沼郡 水無川流域の歴史』大和町水無川流域の歴史を語る会
- 堀之内町 1997『堀之内町史』
- 山本 肇 ほか 1985『金屋遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第37集 新潟県教育委員会

要 約

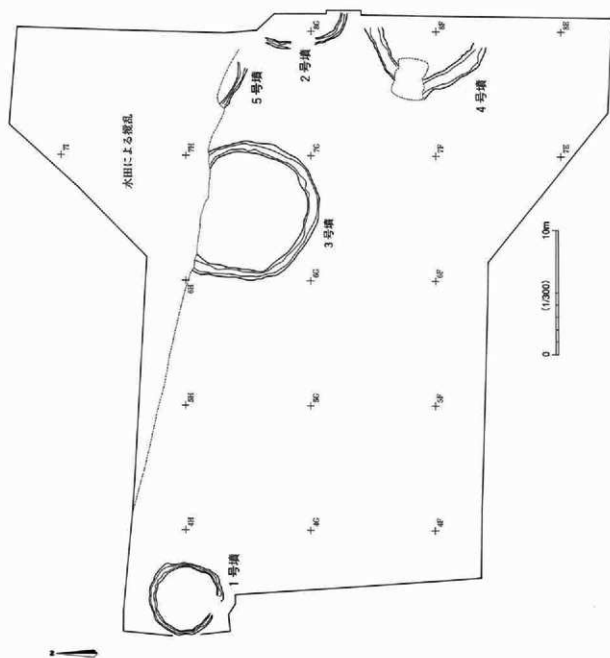
- 1 大久保遺跡は、南魚沼郡大和町大字浦佐字大久保3580番地ほかに所在する。遺跡は水無川扇状地の扇端部、魚野川右岸の段丘上に立地し、標高130m前後である。現況は山林及び荒蕪地である。
- 2 発掘調査は、国道17号浦佐バイパス建設に伴い平成11年9月1日から11月30日にかけて実施した。調査面積は1,800㎡である。
- 3 調査の結果、古墳時代後期の円墳5基を検出した。遺物は古墳時代後期の土師器・須恵器・管玉のほか、縄文時代前期・晩期の土器・石器などが整理箱に4箱出土した。
- 4 1号墳では墳丘盛土内から土師器甕が、2・3号墳では周溝から土師器甕・内面黒色処理の杯を検出した。古墳築造にともない土器祭祀が行われていたと考えられる。
- 5 出土した土師器杯のうち底部外面に記号状のヘラ書きのあるものが見られ、土器祭祀との関連で注目される。
- 6 大久保遺跡の発掘成果は魚野川右岸の段丘上（扇状地端）におけるさらなる小規模古墳群および古墳時代遺跡の存在を示唆するものといえる。

土器観察表

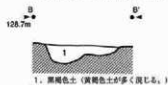
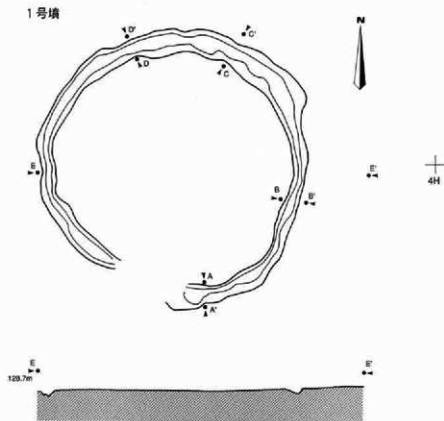
番号	種別	器種	出土地点	層位	保存部位	法量 (cm)	成形・調整 (外面)	成形・調整 (内面)	胎土	色調 (外/内)	備考
1	土師器	甕	3H-3	Ⅲ	体		ハケメ	ケズリ (ハケ)	チャート・長石	黄褐色 / 灰黄	底部に木の炭痕
2	土師器	甕	2号周溝		口～肩	口：22.4	ハケメ・ナデ	ケズリ	チャート・長石が多い 黄緑	緑/橙	
3	土師器	甕	2号周溝		完形	口：13.8 底：3.0	上～下ハケメ	ケズリ	4mm程度の礫・長石 チャート多い 黄緑少ない	緑/橙	外面に焼成時の黒痕あり
4	土師器	甕	3号周溝		口	口：13.0	ナデ	ケズリ?	3mm程度の礫混じり 長石・石英		内外面の割傷多い
5	土師器	甕	7F-14	Ⅲ	底	径：3.6	ハケメ	ケズリ (横)	長石多い 黄緑少ない 細砂混じり		
6	土師器	甕	4号周溝		体		ハケメ	ハケーケズリ	石英・長石・雲母・赤 色粒子多い	黄褐色 / 黄褐色	外面にスス付着
7	須恵器	甕	5F-15	Ⅲ	口		タタキ→タタキ目	上：ナデ 下：同心円当て 具痕	5mm程度の礫を含む 石英多い	黄褐色 / 灰黄	
8	須恵器	甕	7F-2	Ⅲ	体		タタキ	同心円→ナデ (スリケン)	黒色粒含む 長石含む	黄褐色 / 灰	
9	土師器	杯	2号周溝		底	径：6.0	ミガキ	ミガキ	長石多い 細砂粒多い	黒 / 黒褐色	ケズリの残るミガキ調整
10	土師器	杯	2号周溝		体		ミガキ	ミガキ	2mm程度の礫含む 細砂多い	黄褐色 / 黄褐色	内面の検存良好
11	土師器	杯	2号周溝		口	口：15.4	ミガキ	ミガキ	細砂粒多い 長石を含む	黄褐色 / 黒	底部にヘラ記号
12	土師器	杯	2号周溝		底	径：4.8	ミガキ (横位)	ミガキ (縦位)	1mm程度の石英が多い	黄褐色 / 黒	底部にヘラ記号
13	土師器	杯	6F-14	Ⅲ	口～体	口：16.8 底：4.0	ミガキ	ミガキ	チャート・長石多い 黄緑少量	黄褐色 / 黒	内面の黒色塊層積具
14	土師器	杯	5F-7	Ⅲ	底	径：4.8	ミガキ	ミガキ	チャート・黄緑少量含む 長石多い	淡黄 / 黒	内面のミガキ良好
15	土師器	杯	5H-7	Ⅲ	ほぼ完形	口：14.1	ミガキ	ミガキ	長石多く、黄緑少ない	淡黄褐色 / 黒	外面のミガキ丁寧 底部ヘラ記号「X」
16	土師器	杯	4G-20	Ⅲ	口	口：16.2	ミガキ	ミガキ	1mm程度の長石 細砂少量	緑 / 黒褐色	
18	縄文土器		7F-14	Ⅵ	口		爪形文 平行比羅	ナデ	細砂多く含む 1mm程度の礫多い	黄褐色 / 緑	露積り式
19	縄文土器		5F-19	Ⅲ	体		入眼本葉文	ナデ	白色粒多い 黄緑多い	緑/黒	露積り式
20	縄文土器		3G-10	Ⅲ	口		輪痕積	ナデ	2mm程度の礫 1mm以下のチャート・ 長石 黄緑少量	明褐色 / 橙	スス付着
21	縄文土器		5F-23	Ⅲ	口		縦筋文	ナデ	3mm程度の長石多い	黄褐色 / 橙	
22	縄文土器		6G-3	Ⅲ	体		網目状凹凸紋	ナデ	2mm程度の礫・長石が 多い 風化した礫 (5mm以下)	赤褐色 / 黄褐色	
23	縄文土器		5F-23	Ⅲ	口	口：38.2	縦筋文 LR	ナデ	1mm程度のチャート・ 長石	灰 / 黄褐色	

石器観察表

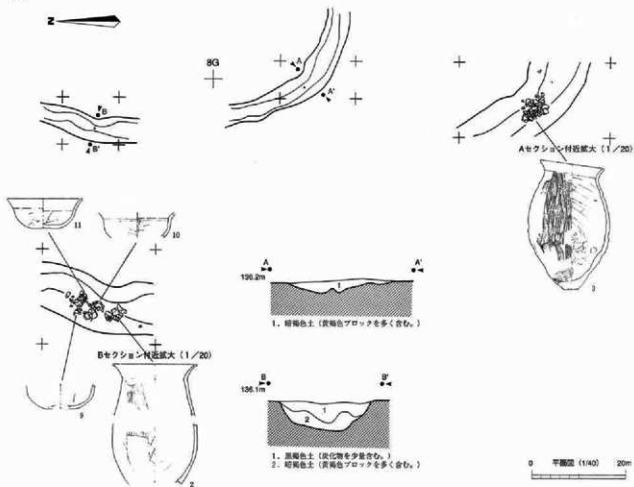
NO	器種	出土位置	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
17	管玉	6G-13	Ⅲ	2.0	0.8		4.3	緑色凝灰岩	孔径2～2.5mm
24	打製石斧	6F-24	Ⅲ	15.6	8.6	3.3	842.6	安山岩	
25	不定形石斧	3H-10	Ⅲ	7.5	4.8	2.4	81.9	粘板岩	
26	打製石斧	5F-14	Ⅲ	6.3	5.4	0.6	31.4	粘板岩	
27	打製石斧	5G-18	Ⅲ	8.4	7.2	0.6	117.1	凝灰岩	
28	不定形石斧	4F-3	Ⅲ	5.4	8.7	1.8	60.5	粘板岩	



1号墳



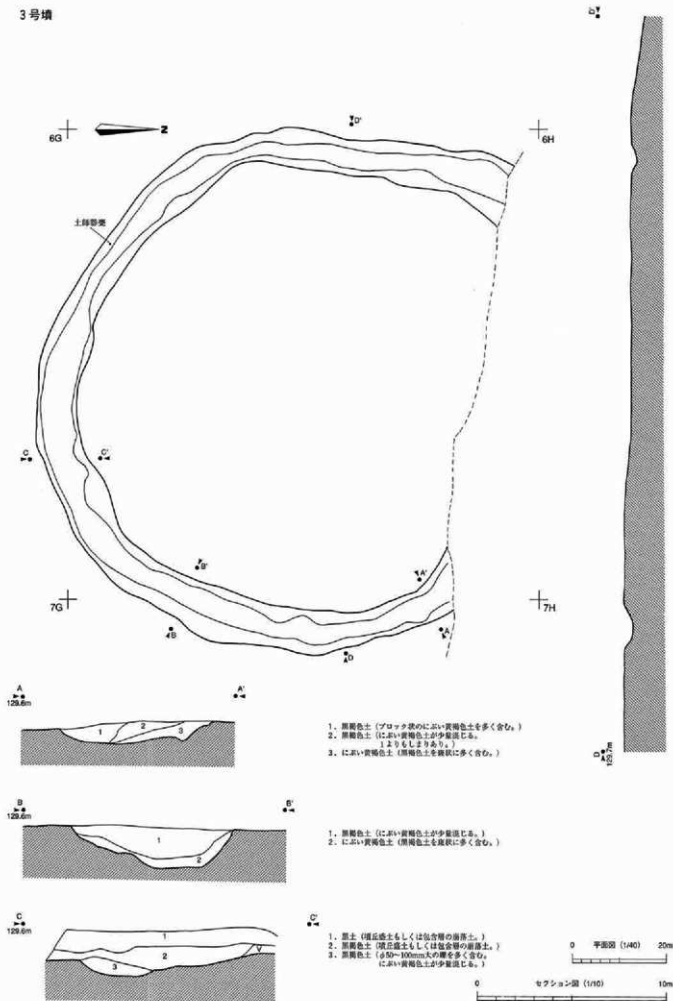
2号墳

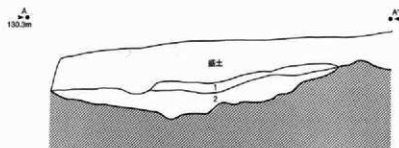
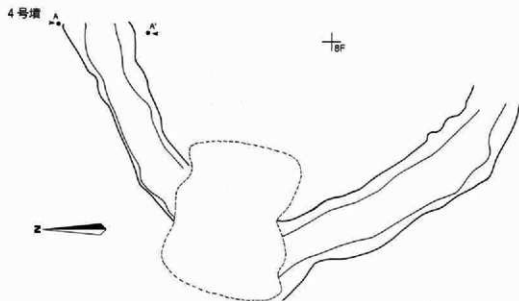


0 平面図 (1/40) 20m

0 セクション図 (1/10) 10m

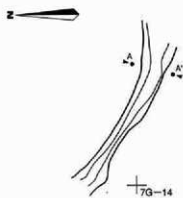
3号墳





1. 黄褐色土（黄褐色土を小塚状に含む。）
2. 黒褐色土（黄褐色土が多く混じる、炭化物を少量含む。）

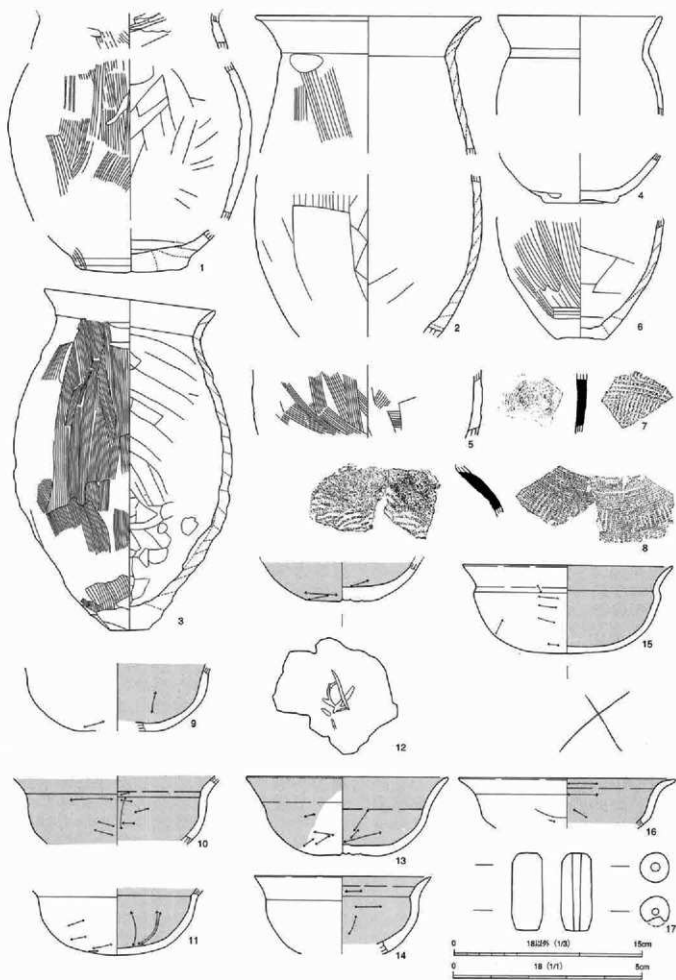
5号墳



1. 黄褐色土（上より黄褐色土を小塚状にまだらに含む。）
2. 上より黄褐色土（黒褐色土を多く含む。）

0 平面図 (1/40) 20m

0 セクション図 (1/16) 10m

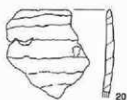




18



19



20



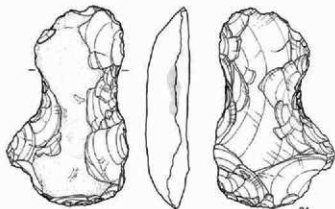
21



22



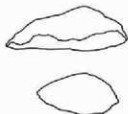
23



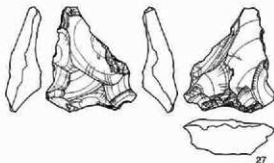
24



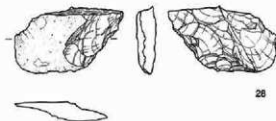
25



26



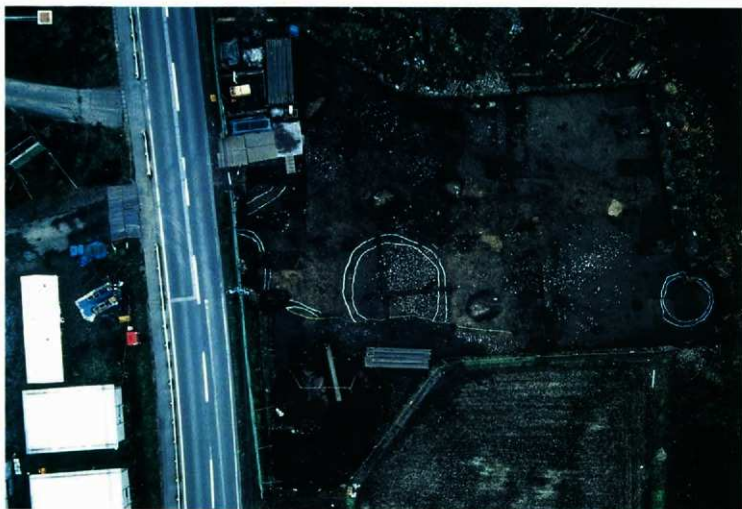
27



28



遺跡遺景（浦佐スキー場から東をのぞむ）

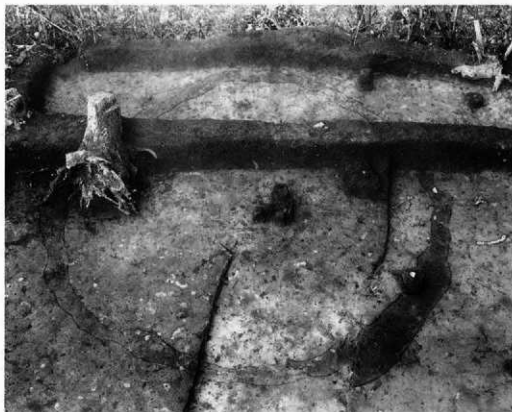


調査区全景

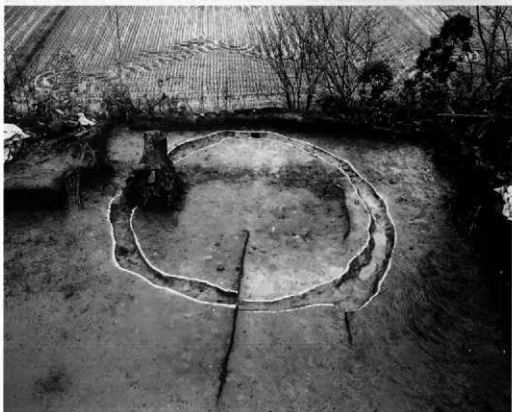


(左) 基本层序 (N-2)

(右) 基本层序 (NE-2)



1号坑检出



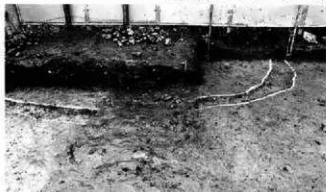
1号坑完掘



1号周溝セクション (C-C')



1号墳土器出土状況



2号墳完掘



2号墳西側土器出土状況



2号墳南側土器出土状況



3号墳完掘



3号墳東側周溝セクション



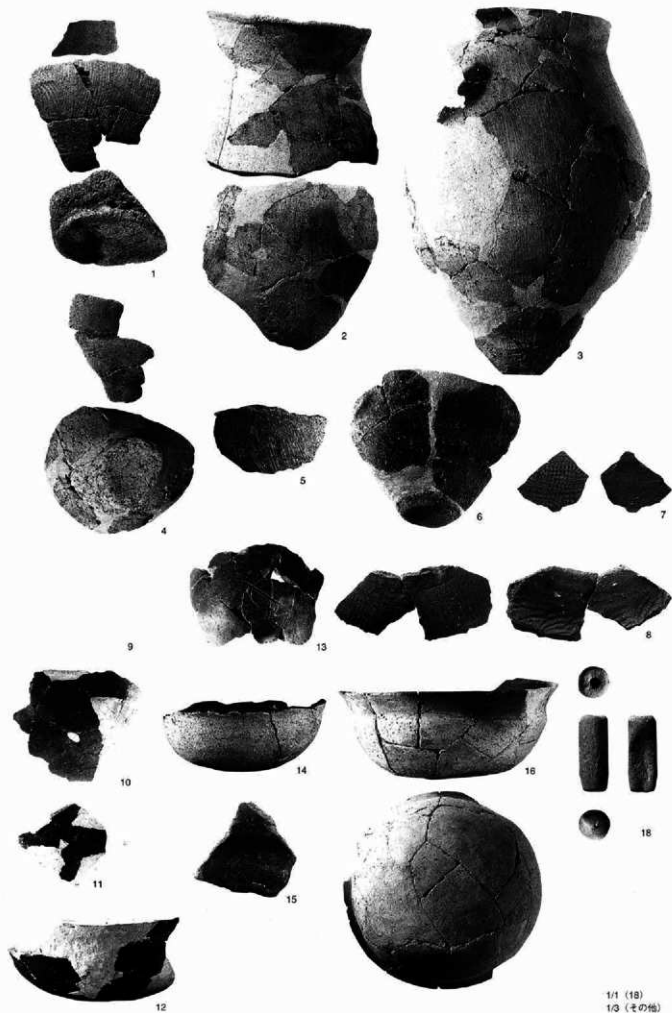
3号墳土器出土状況

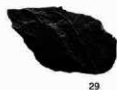


5号墳完掘



調査区完掘状況





ふりがな	おおくほいせき							
書名	一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大久保遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編著者名	尾崎高宏、坂上法子							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新津市大字金津93番地の1 TEL 0250-25-3981							
発行年月日	平成13(2001)年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査要因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
大久保遺跡	新潟県南魚沼 市大和町大字 浦佐字大久保 3580番地ほか	71	148	37度 09分 20秒	138度 50分	一次調査 1998.8.29～ 1998.9.10 二次調査 1999.9.1～ 1999.11.30	1,800m ²	国道17号浦佐バ イパス建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大久保遺跡	古墳	古墳時代 後期	円墳5基	土師器・須恵器・管玉				
	散布地	縄文時代		縄文土器・石器				

新潟県埋蔵文化財調査報告書第101集
 国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ
 大久保遺跡

平成13年3月29日 印刷 発行 新潟県教育委員会
 〒950-8570 新潟市新光町4-1
 電話 025(285)5511
 平成13年3月30日 発行 編集 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒956-0845 新潟市大字金津93番地1
 電話 0250(25)3981
 FAX 0250(25)3986
 印刷・製本 新高速印刷株式会社
 〒950-0963 新潟市南出来島2-1-15
 電話 025(285)3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第101集 『大久保遺跡』 正誤表

頁	位置	誤	正
図版10		遺物No. 9	遺物No. 16
図版10		遺物No. 10	遺物No. 9
図版10		遺物No. 11	遺物No. 10
図版10		遺物No. 12	遺物No. 13
図版10		遺物No. 13	遺物No. 12
図版10		遺物No. 14	遺物No. 11
図版10		遺物No. 15	遺物No. 14
図版10		遺物No. 16	遺物No. 15
図版10		遺物No. 17	遺物No. 16
図版10		遺物No. 18	遺物No. 17
図版11		遺物No. 19	遺物No. 18
図版11		遺物No. 20	遺物No. 19
図版11		遺物No. 21	遺物No. 20
図版11		遺物No. 22	遺物No. 21
図版11		遺物No. 23	遺物No. 22
図版11		遺物No. 24	遺物No. 23
図版11		遺物No. 25	遺物No. 24
図版11		遺物No. 26	遺物No. 25
図版11		遺物No. 27	遺物No. 26
図版11		遺物No. 28	遺物No. 27
図版11		遺物No. 29	遺物No. 28
抄録	市町村コード	7 1	1 5 4 6 4
抄録	北緯	3 7 度 4 9 分 2 0 秒	3 7 度 0 9 分 3 2 秒
抄録	東経	1 3 8 度 5 0 分	1 3 8 度 5 6 分 0 1 秒